

「妊娠と薬外来における相談事例の解析」について

○ 研究の意義・目的

妊娠と薬外来では、妊娠前、妊娠中に服用した薬の赤ちゃんに与える影響についてカウンセリングを実施しています。首都圏では妊娠中の相談よりも妊娠前の相談が多いことが報告されており、地域により相談内容に特色があると考えられます。本研究により、当院での相談内容の実態を明らかにすることは、今後妊娠と薬外来を受診される患者さんへの説明の際に有用な情報になると考えています。

○ 研究対象者

平成 20 年 7 月 1 日から平成 27 年 9 月 30 日までに、広島大学病院妊娠と薬外来を受診された患者さんを対象とします。

○ 研究方法

本研究は、問診票情報を転記し、匿名化したものを用いて、相談薬剤の薬効別頻度、相談のきっかけと相談薬剤の関連性、妊娠の有無と相談薬剤の関連性などについて解析を行います。

問診票から転記する内容は患者基本情報、相談薬剤、相談内容です。（個人が特定出来る情報は転記しません）

○ 研究期間 承認後～平成 29 年 3 月 31 日

○ 個人情報の保護について

調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。

不明な点がございましたら下記のところまでお問い合わせください。

* 研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても今後の診療等に不利益が生ずることはありません。

.....

お問い合わせ先

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

T e l : 082-257-5572

広島大学病院 薬剤部 教授 松尾 裕彰（研究責任者）

薬剤師 掬橋 久美（担当者）